

関西学院千里国際中等部
2021年度 入学試験問題

国語

- ・ 問題用紙はこの表紙をのぞいて 4枚、解答用紙は 1枚あります。
- ・ この表紙と解答用紙に受験番号を書きなさい。
- ・ 字数制限のある場合は、「、」「。」「」もふくみます。

受験番号 (DMG)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

メダカは長さが三、四センチしかない小さな魚で、私たちが子どものころはほんとうにどこにでもいました。あまりにありふれていたもので、フナやコイなどとくらべると、①子どもにとつてあまり魅力みりょくのない、雑魚ざぎょの代表のような魚でした。

ところが、このメダカが **A** 「絶滅危惧種」として絶滅を心配されているというニュースが流れたのです。一九九九年のことです。子どものころ魚とりに熱中したことのある、私たちの世代にはとても信じられないことでした。減ったことは事実かもしれない、でもメダカにかぎって絶滅ということは考えられない、というのが実感でした。しかし、②これは **B** 信じなければならぬ事実のようです。 **C** 悲しいことです。その背景にはつぎのようなことがありました。

かつて田んぼは用水路で水を引いていました。その用水路は田んぼとほぼ同じ高さであり、微妙びみょうな高さの違いを利用して水の入り口と出口がつくられていました。ひとつの田んぼから出た水がとなりの田んぼに入る、という構造になっているものもありました。そのような用水路は地形に応じて曲がっており、深さも一定でないで、水の流れにも微妙に違いがあり、それに応じて違う植物が生えていました。昔の子どもが **a** ムチュウで魚とりをしたのは、このような用水路でした。秋になって田んぼから水が抜かれても用水路には水が残っており、③くぼみが「魚だまり」となって魚が生きていたのです。

ところが、一九六〇年代からはじまった農業基本整備事業によって、自然の地形に応じてつくられていた④田んぼに大きな変化が生じました。かつて人力で営々と **b** 築かれてきた田んぼは、**c** ダイキボな土木工事によって完全に作りかえられてしまったのです。田んぼの水が管理しやすいうちに、用水路はU字管というコンクリートの管にされました。断面の形がU字型なのでこの呼ばれます。U字管の機能は水田に水を運ぶことですから、それ以外のものは必要ありません。その結果、水を流すときは洪水こうずいのように大量の水が勢いよく流れます。

魚が隠れるところもなければ、カエルが卵を産むところもありません。用水路は田んぼから効率的に排水はいすいするために、水田との高さの差が大きくなるようにつくられました。このため、水を抜くと田んぼは完全に干上がりまます。U字管には **D** はありませんから、土の中にもぐって生きるドジョウや小さなメダカも生き延びることはできません。その結果、⑤夏の「洪水」と冬の「砂漠」がくりかえされることになりました。これでは生きていける動物はいません。

ところが、小動物に対する仕打ちはこれにとどまりませんでした。ちまちました小さな田んぼは農作業の効率が悪いことは確かです。そこで⑥「暗渠排水」といって、田んぼの地中に管を埋め、水を集めて排水することがすすめられたのです。こうすれば水路に使った土地も使えるし、

細かなデコボコをなくすることができるかと考えたのです。こうなると動物には生活する場所がまったくなくなってしまうです。こうして、メダカに代表される無数の小さな生きものたちは、田んぼから姿を消していったのです。

日本の農業は稲作が中心ですが、それは米を巨大なポットのようなどころで効率的につくることだけではありませんでした。毎日の営みの中で米づくりを中心におきながらも、家畜を飼い、ウラヤマから **e** ヒリョウとなる枯れ葉を集め、ときどきドジョウやフナをとるなど、じつにさまざまな営みの中でおこなわれたものでした。また、田植えのときには若い女性が晴れ着を着て早苗を植え、近所の人が助けあつて田植えや稲刈りをするという社会の営みでもありました。そして先祖から引き継いだ土地に祈りをささげ、収穫物に感謝をささげるといふ心に支えられたものだったはずです。それは工場で米という名の製品をつくるのとはほど遠い営みでした。しかし、この土木工事はそのようなことをすべて無視したものでした。⑦そのことの意味の深さを私たちは考えつづけなければならぬと思います。

（高槻成紀著『野生動物と共存できるか』）

問一 — a、e のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 — ①「子どもにとつてあまり魅力のない」とありますが、それはなぜですか。本文中の言葉を使って二〇字以内で答えなさい。

問三 — **A**、**C** にあてはまる最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア じつに イ なんと ウ もしも エ どうやら

問四 — ②「これ」の指す内容を二〇字以内で答えなさい。

問五 — ③「くぼみ」はなぜできるのですか。解答欄に合うように本文中から二五字でぬき出しなさい。

問六 — ④「田んぼに大きな変化が生じました」とありますが、その「変化」を説明したものと適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

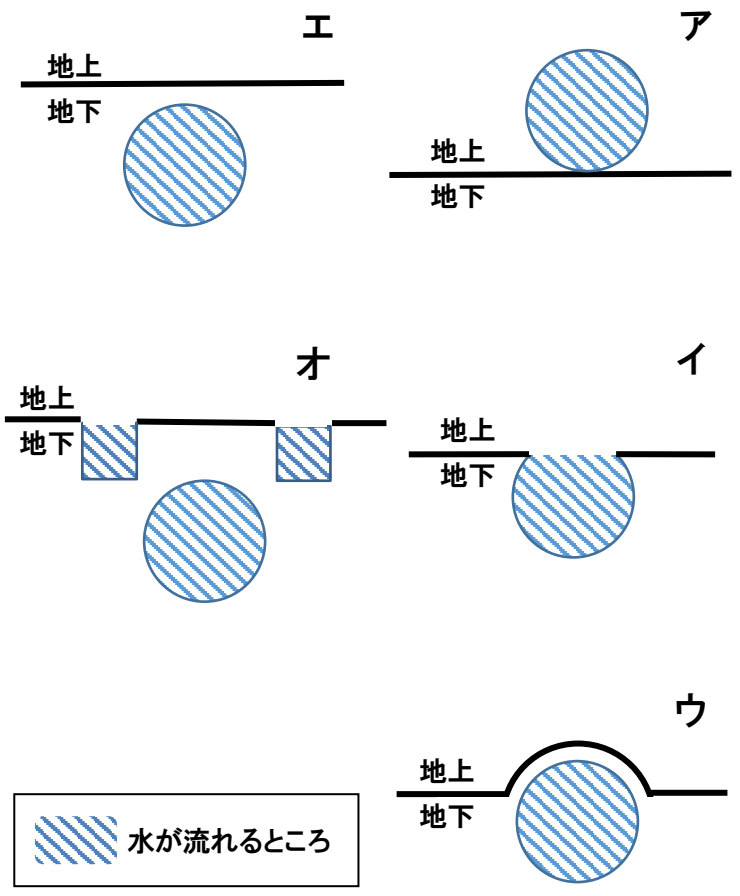
- ア 田んぼが元々ある自然の地形に応じてつくられなくなったということ。
 イ 用水路が魚の隠れる所を無くすためにU字管に変えられたということ。
 ウ 田んぼが人力ではなく土木工事で作られるようになったということ。
 エ 用水路が水の管理のしやすいコンクリート製の管になったということ。
 オ 田んぼが一九六〇年代の農業基本整備事業により減少したということ。

問七 ———— **D** に入る適切な言葉を、ここより前の本文中からぬき出しなさい。

問八 ———— ⑤「夏の『洪水』と冬の『砂漠』」とありますが、どんな状態をたとえたものですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

問九 ———— ⑥「暗渠排水」について、次の(1) (2)の問いに答えなさい。

(1) これを説明した図として最も適切なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。



(2) その結果、どのようになりましたか。良い点と悪い点をそれぞれ一つずつ答えなさい。

問十 ———— ⑦「そのことの意味の深さ」とありますが、その内容として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本の農業は、単に米作りをするだけのものではなく、社会の営みでもあり、また日々の感謝とともに行われるものであったということ。

イ 米づくりは、日本人の社会的・宗教的営みを支えるものであり、それを中心におくことで、日本社会が効率的に営まれていたということ。

ウ 農作業の効率を良くするための整備事業は、日本人が農業を中心にして行ってきたさまざまな営みを、無視するものであったということ。

エ かつてメダカやドジョウが住んでいた「魚だまり」は、農業が製品を効率的につくるものではなかったため、存在できていたということ。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学6年生の珠子は塾で知り合った羽村ヒカル（ハムちゃん）と砂像を作るクラブを結成した。砂像アーティストであるシラベさんが持っている「黄金のシャベル」をどちらが使うかで、小6の葉真と砂像対決をすることになった。

「三、二、一、終了！」

その瞬間、緊張の糸がぷつんと切れて、珠子は砂の上にたおれた。

ヒカルがマンメンの笑みをうかべて、珠子を見下ろした。

「はじめて時間内で完成した！」

「やったね！ サンドイッチクラブの最高傑作ができたね！」

「うん。あとは判定しただい」

ヒカルが珠子の手を引っぱった。珠子は起きあがってシラベさんを見た。

シラベさんは「せっかくだから、ここにいる人たちにも選んでもらおうよ」と言った。

砂場に人だかりができていた。杏とちずのほかに、親子連れや小学生たちが①砂像対決を遠巻きに見物していた。

シラベさんは羽衣音から受け取った泥団子を集まっていた人たちに見せた。

「よかつたらみなさんも泥団子を作って、気に入ったほうの作品の前においでください」

小学生たちが「おもしろそう」「やってみようぜ」と泥団子を作りはじめた。母親と小さな子どもたち、ちずと杏も砂の上にしゃがみこんで、慣れない手つきで砂をこねはじめた。

珠子は葉真の作品を見た。予想どおり、伝説の猛獣キメラだった。

吠えたける声がかきこえてきそうな大きな口。大地をどつかんだ鋭い爪。ライオンの背

中にのった畏れ知らぬヤギと、しっぽのヘビが、神を威嚇するように空に牙を向けている。壁は使わず、足もとで②と燃えている炎をうまく使って、全体のバランスをとっていた。

対するサンドイッチクラブの作品は、三体のコウテイペンギンだ。元気な赤ちゃんペンギンが

両親に見守られながら小さな翼をひろげている。背景の氷山と、足もとにただよう南極

海の泡で、厳しい自然とともに生きるコウテイペンギンのたくましさ表現した。

珠子はできあがった瞬間は自分たちの作品が最高だと思ったけれど、葉真の作品を見て③自信がゆらいだ。

それくらい葉真の作品に圧倒された。前に見たカメラとはくらべものにならないほど大きくて、完成度が高かった。伝説の猛獣を躍動感いっぱいに表現できるなんて、やっぱり葉真はすごい、と珠子は思った。

「ハムちゃん、どうしよう。葉真のキメラ二号、うますぎるよ」

③ うん……。でも、今は認めたくない」

ほどなくして、砂像のまわりに人が集まってきた。二組の親子。小学校低学年の男の子たちが四人。ちず、杏、シラベさんと、あわせて十一人がトウヒョウする。

「さあ、いよいよ運命の結果発表です！ みなさん、泥団子をおいでください！」

愛衣音がタブレットに向かって④芝居がかった声で告げた。

最初に、小学生たちがキメラ二号の前に泥団子をおいた。つづいて、ちずと杏がコウテイペンギンの前に泥団子をおいた。

親子ペアは意見がわかれて、一組はキメラ二号の前に、もう一組はコウテイペンギンの前に泥団子をおいた。

結果はキメラ二号が六個で、コウテイペンギンが四個。

葉真の勝利が決まると、羽衣音が「やった！」とガッツポーズした。愛衣音もコウフンしながら、タブレットに向かってさげんだ。

「ヨーマの圧倒的勝利！ 優勝です！ サンドイッチクラブ、ボロ負けです！」

珠子はがっくりと⑤を落とした。ヒカルもうつむいて、ろをかんだ。

——ああ、負けちゃった。

実力の差が出た。でも、母親のひとりが珠子たちの砂像の前に泥団子をおいたとき、

「このペンギン、なんか野性的でかっこいいね」と言ってくれたことが救いだった。

「それでは勝利者インタビューです！ ヨーマXさん、おめでとうございます！」

愛衣音が葉真に近づいていくと、葉真はタブレットを手荒にはらいのけた。

「やめる。まだシラベさんの判定が出てない」

シラベさんはふたつの砂像のまわりを歩いては立ちどまり、また歩いては立ちどまって、作品を鑑賞した。珠子たちのところにもどつてくると、「テーマ選びはどちらもいいね。表現力は葉

真が上かな」と言った。

葉真が「よつしや！」とガッツポーズした。

「ただし、問題はここだ」

シラベさんはしっぽのヘビの下にある木の板と、それをささえる角材を指さした。

「砂像は彫刻でしょ。彫刻はそれのみで存在しないとイケない。この板も作品の一部ならい

けれど、ヘビをささえるためだけにあるとするなら、それはありえない。ここ、超大事」

シラベさんはそう言って珠子たちの砂像の前に泥団子をおいた。

⑥ その瞬間、砂場は時間がとまったように静かになった。愛衣音が沈黙を破った。

「でも、でも、六対五だから葉真の勝ちだし！」

その瞬間、砂場は時間がとまったように静かになった。愛衣音が沈黙を破った。

「でも、でも、六対五だから葉真の勝ちだし！」

「でも、でも、六対五だから葉真の勝ちだし！」

羽衣音も「そうだよ！ はい、勝った勝った！」とジャンプした。野次馬の小学生たちもつしよになってさわぎはじめた。

「やった、やった！ 葉真が勝った！」

「ペンギンをこっぴどみにしようぜ！」

羽衣音が黄金のシャベルをかまえてコウテイペンギンにおそいかかろうとしたら、葉真が前に立ちはだかった。

「それ、かせ」

⑦ 葉真はこれまで見たことのないような怖い顔をして羽衣音から黄金のシャベルを奪うと、カメラに向かって一気にふりおろした。ヘビのしっぽがくずれて木の板が砂に埋もれた。

ライオンも、ヤギも、一瞬で消えた。

「帰るぞ」

葉真はコウテイペンギンの前に黄金のシャベルをつきさすと、砂場から出ていった。羽衣音と愛衣音が「どうしたんだよ？」「なんでこわしちゃうんだよ？」と半べそをかきながら兄のあとを追いかけていく。

⑧ 珠子はあつけにとられた。ヒカルも口を半開きにしたまま、身動きできずにいた。

シラベさんは「しゃーないなあ」とつぶやくと、その場にいた人たちに向かって「砂場を占領してすみませんでした」と頭を下げた。

小学生たちが奇声をあげながらくずれたカメラの上のぼった。小さな子どもたちは母親に見守られながら砂をつかんだ。

珠子たちの思いとは関係なく、砂場ではすでに新しい遊びがはじまっていた。

(長江優子著『サンドイッチクラブ』)

注 黄金のシャベル……シラベさんの道具で、黄金と呼ばれるほど使いやすい。

羽衣音と愛衣音……葉真の弟達で、ふたご。

杏とちず……珠子の友達。

問一 —— aとeのカタカナは漢字に直し、漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

問二 —— ①「砂像対決」とありますが、それを示した次の表のA～Fに入る言葉を、本文中からぬき出しなさい。

チーム名	人物名	どんな作品
A	B	C(二〇字以内)
D	E	F(二〇字以内)
	ヒカル	

問三 []に入る最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア めらめら イ 荒々しい ウ がっしり エ 毒々しい

問四 —— ②「自信がゆらいだ」とありますが、その理由を本文中の言葉を使って、二五字前後で答えなさい。

問五 —— ③「うん……。でも、今は認めたくない」とありますが、この時の「ヒカル」の気持ちとして、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 相手の作品が自分たちのより上だと認めるのが悔しいから。

イ 葉真が重大なミスをしていることに気がついているから。

ウ 葉真に勝てる可能性が十分にあると思っっているから。

エ 砂像対決の勝ち負けにまったくこだわっていないから。

問六 —— ④「芝居がかった声で」の意味として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 必死に イ 大きさに ウ 悲しげに エ はずかしそうに

問七 []、[]に入る最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 肩 イ くちびる ウ 舌 エ 目

問八 —— ⑤「葉真が『よっしゃ！』とガッツポーズした」とありますが、ここで初めて「葉真」が喜びを表現したのはなぜですか。三〇字前後で答えなさい。

問九 —— ⑥「その瞬間、砂場は時間がとまったように静かになった」とありますが、「静かになった」きっかけを説明した次の文の空欄に入る言葉を答えなさい。(ただし、AとCは一〇字以内で答えること。)

誰も気にしていなかった [A] を理由に [B] が [C] に泥団子をおいたこと。

問十 —— ⑦「葉真はく一気にふりおろした」とありますが、この時の「葉真」の気持ちとして、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア コウテイペンギンを壊そうとした羽衣音をとてもはざかしく思っている。

イ 隠しておこうと思っっていたしっぽの細工が見つかって悔しく思っている。

ウ 勝利をシラベさんがきちんと認めてくれないことをうらみに思っている。

エ シラベさんに言われるまで気づかなかった自分を腹立たしく思っている。

問十一 —— ⑧「珠子はく身動きできずにいた」とありますが、この時「珠子」と「ヒカル」の二人はどんな気持ちでしたか。自分の言葉で説明しなさい。

受験番号 DMG

【 一 】

問一	a
問二	b
問三	かれ
問四	c
問五	d
問六	e

問一	A
問二	B
問三	C
問四	
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

1

問九	良い点
問十	悪い点

2

問十	
----	--

【 二 】

問一	a
問二	b
問三	き
問四	c
問五	d
問六	e

問一	D	A
問二	E	B
問三	F	C
問四		
問五		
問六		

問一	i
問二	ii
問三	iii
問四	iv
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

問一	
問二	
問三	
問四	
問五	
問六	

問十	
----	--

問九	C	A
問十		
問十一		